



東京部会(第56回)

日時: 2013年2月15日(金) 19:00—21:30

場所: 日本大学経済学部7号館10階7015教室

参加者: 篠原(同志社)、新井(小石川中等)、大川(川口里中)、杉田(千葉西高)、高橋(桜修館中等)、
升野(筑波大附属中)、宮崎(蒲田高)、中沖(清水書院)、石山(東証)、榊原(東証)、鈴木
(日本経済教育センター)

【内容要旨】

1. 16日のWS川口の最終確認を、大川先生からの報告をもとに行いました。
2. 篠原先生から、2月9日に予定されて荒天のため延期になったWA稚内の事情の報告をうけました。同WSは3月8日、9日に内容同一で実施予定。あわせて、札幌部会の様子、研究集会の企画など活発に活動を行っていることが報告されました。
3. 夏休み経済教室の内容のつめを行いました。ここまでに決まっている企画のほか、教科書を読み解くでは、金融と国際経済の部分テーマとすること、講演では、行動経済学をテーマにして大竹先生にお願いすること、実践関係では河原先生と教育学関係の先生方、エコノミストの先生方のコラボを考えてゆくことが確認されました。最終的な担当者は篠原先生を中心につめてゆくこととなりました。
4. 高橋先生から、先日桜修館中等教育学校で行われた加藤一誠先生の公開授業「幸せの人生を経済しよう」の様子が当日配布された授業資料とともに報告されました。機会費用概念を噛み砕き、進路と就職、結婚など人生の岐路にたつてどのように経済の知見を生かすかという題材で、今後、出前授業などのかたちで広げてゆくとのこと。
5. 宮崎先生から、厚生労働省がすすめようとしている社会保障教育に関する報告をうけました。副教材や教科書づくりまで厚生労働省は考えているとのこと、そこに財政問題を入れて将来くらい話にならないような方向はあるかという問題提起でした。これに対して、年金問題に踏み込まない社会保障教育はないという意見や、人口構造をしっかりとみつめたら現在の社会保障の持続性は保障できないのは自明で、そこを踏まえるべきという意見がだされました。
6. 高橋先生の実践報告がありました。一つは1月の東京部会で試案をだされていた法と経済をテーマにした二つの授業、マンション建設を巡る事例、最低賃金と法と経済の実践報告でした。また、あらたに経済政策を提言しようという授業案も配付されましたが、検討する時間がなく討論は持ち越しとなりました。
7. センター試験の問題が用意されましたが、検討時間がなく、各自検討するということになりました。

文責:新井

次回開催予定: 4月中旬予定。場所は未定。議題は、3月の大会および夏の経済教室の内容の詰め、参加者からの活動報告、その他。